



ピアノの どこが好き? ④

SPECIAL INTERVIEW

ピアノって、魔法の楽器♪なんですよー!

ピアノは、かっこいい♪ 楽器!

— お二人がピアノに憧れたきっかけは？

♥ ヤマハ音楽教室に通っていた姉のレッスンについていき、それがとても楽しかったのがきっかけで、三歳からピアノのレッスンを始めました。それ以来、ずうっとピアノが大好きで、今まで来たという感じです。

初めてピアノの演奏会に行ったのは仲道郁代さんと祐子さんのコンサートでした。そのドレス姿が本当にきれいで、自分も将来あんなふうになりたいと思って素敵だらうなと憧れたのも、ピアニストを目指したひとつの動機になりましたね。

♣ 僕が四歳くらいの頃でしようか、隣のお宅のお姉さんがアップライトピアノを持っていたんです。お姉さんが練習をし出すと、僕はその傍で踊ったり、お姉さんが学校へ行っている間、そのピアノで遊んでいたそうなんです。それがきっかけで、「僕もピアノを習いたい」と両親におねだりするようになり、一年経ってもまだ僕がそう言い続けるので(笑)、両親がヤマハのアップライトピアノを買ってくれました。

初めてピアニストになりたいと思ったのは、中学一年生のとき。香港でコンチエルトを聴く機会があり、

生き方から、作曲家への思いに至るまで、あらゆることを聴いている人に伝えることができます。

♥ ピアノって、「魔法の楽器」だと思っんですよ。気持ちを込めて弾くことで、その人にしか出せない音をつくり出すことができますから。タッチの違いひとつで、例えば楽しい音、しっとりした音など、自分の伝えたい思いを、音を通して表現できるんです。

それに、ピアノは木などの自然素材でできたアコースティック楽器ですから、出てくる音が自然で、耳に心地よく響きます。子ども時代は心も体もまだ固まっていなくて、感性とか情緒など、物事に感動する力もこの時期に決まりますよね。そうした大事な時期に一番最初に聴いた音は、その子の一生を左右する力を持っています。だからこそ小さなうちから、ピアノの素敵な音にまず触れてほしいと思います。

♣ 大学で教えていても、普段どんなピアノを弾いている、小さなときにどんな楽器で練習していたかは、その学生の演奏を聴くだけでよく分かります。良いピアノの音で育った学生は音楽性豊かな演奏をします。人の手をつくられ、人の手で弾かれて、調律される。その度ごとに人の手から楽器にのちが吹き込まれていく。ピアノはそんな楽器だと思うんです。

二人で弾けばもっと楽しくなる

— そんな素晴らしいピアノを、ソロだけでなく、二人で弾けばもっと楽しくなりますか？

♣ 二人で弾けば「倍どころか、その何倍にも音楽の幅が広がります。例えばオーケストラの曲を四手連弾や

オーケストラに囲まれて真ん中に置かれたグランドピアノが何とも言えずかっこよくて、憧れましたね。

♥ 私は小さい頃、ヴァイオリンも習っていました。赤いコートを着て、肩からヴァイオリンケースを提げてお稽古に通う姿に憧れて(笑)。でも、たまたまピアノとヴァイオリンのお稽古の日が一緒になったことがあり、どちらを選ぶかとなったとき、躊躇なくピアノを選びました。もう赤いコートも着たし、ヴァイオリンケースも持つことができた。だから、もういいかなって……(笑)。

1111の音が弾く人のすべてを表現してくれる

— そんなお二人にとって、ピアノの魅力とは？

♥ 子どもの頃は自分が小さいですから、大きなピアノの前に座ると、視界全体がピアノだけで占められます。私はピアノ椅子から見えるその風景が大好きでたまりませんでした!

♣ 指を寝かせて弾くか立てて弾くかなど、さまざまな鍵盤タッチによって、いろいろな音を出せるのも、他の鍵盤楽器にはないピアノならではの魅力ですね。しかも、その一つ一つの音によって、弾く人の個性や性格、



一台ピアノで弾くと、まるでそこにオーケストラがいるような迫力のある演奏になりますよ。

♥ 自分一人では思いもつかない考えが相手から出てくることで、音楽にさらに広がりが出てきます。二人で一つのものを作り上げていくアンサンブルの楽しさ、本番のときに呼吸がぴたりと合ったときの喜びは、一人では決して体験できない至福の瞬間です。

自分の音を聴く1111の音も喜び

— 子どもたちへのレッスンでよく言っているように聞かせて

ピアノデュオ ドウオール (藤井隆史氏 & 白水芳枝さん)

* 文中で♣は藤井隆史氏、♥は白水芳枝さんを示します



共に東京藝術大学を経てドイツ・マンハイム音楽大学大学院に学び、内外の音楽コンクールで上位入賞を果たしていた藤井隆史氏と白水芳枝さんの二人により2004年にピアノデュオとして結成。同大学院ピアノデュオ科にてロベルト・ベンツ、バウル・ダン両氏のもとで研鑽を積み、2006年に最優秀の成績で修了。ロンドン、シューベルト、ドラノフ、「競奏VII」など国際コンクールにて多数受賞。2005年より日本、ヨーロッパ、アメリカ等でリサイタルのみならずNHK出演、アウトリーチ活動、講座など演奏活動を幅広く展開している。2006年度青山財団パロックザール賞受賞。2009年3月デビューアルバム「Deu'or -ドゥオー-」(NAT08401)発売。藤井氏は現在東京藝大、武蔵野音大、白水さんは共立女子大にて後進の指導に当たっている。

いることはありませんか？

♣ その曲から感じられる「色」や「景色」を必ず尋ねるようにしています。すると、「右手は風が吹いていて、左では石の上に水滴が落ちている」(笑)とか、小さなお子さんほど僕の思いもつかない答をしてくれます。そういうイメージを自分で言葉にすることで、音で自分が伝えたいことがよりはっきりしてくるんですね。

♥ 私は生徒の暗譜ができたなら譜面台を外して、大屋根を開け、「あなたの弾いたピアノの音はどこから聞こえてくる？」とよく問いかけます。自分の弾いている音に耳を澄ましてほしいからなんです。そうやって自分の出す音をよく聴くことで、みるみる音が変わってきます。だからピアノって「魔法の楽器」なんです。(笑)。

お子さまをどうサポートも応援してあげて

—では、お母様方へはいかががでしょうか？

♥ 子どもたちのことをどこまでも応援してあげてほしい、と思います。小さい頃は、分かっているにもかかわらず自分一人ではできないことが少なくありません。例えば、お母さんが「ちょっと練習してみる？」と声をかけるだけでも、ピアノの前にお子さんが座る時間が増えるでしょう。

あと、お子さんをコンサートにせひ連れて行ってあげてほしいですね。私にも記憶があるのですが、子どものとき何も分からなくて、ぼーっと見ていただけの

オペラなのに、大きくなってから、そのときの感動が現在の演奏家としての自分につながっていることに気づくんんです。

♣ それぞれのご家庭なりのルールがあると思うので、お母様方に特にこうしてくださいと、お願いするつもりはありません。強いて言えば、コンクールとか受験とか、目先のことを考えるのではなく、長い目で見て、できるだけ多く、お子さんが音楽に触れる機会を作っていた方がいいですね。

ピアノデュオをもっと身近に楽しんでほしい

—最後に、お二人のデビューCDについてお聞かせください。

♣ このCDに収めた曲目は、現在の僕たちの代表曲として迷いなく選んだものばかりです。今まで僕たちと接点のなかった方々が、一人でも多くこのCDを通して僕たちの音楽を知り、コンサートに来てくださったら嬉しいですね。

♥ 私たちがピアノデュオの勉強を始めたとき、楽譜は数多く出版されているにもかかわらず、それがどんな曲か調べようとしても、発売されているCDが意外に少なく苦労したんです。だから、後に続く方々が私たちのCDを通して、これらの曲に親しんでいたとき、ピアノデュオがもっと皆さんの手の届きやすい、身近なジャンルになればいいなと願っています。